

第 20 回全都市「住みよさランキング」(2013 年)の結果

株式会社東洋経済新報社(本社:東京都中央区、代表取締役社長 山縣裕一郎)では、全国の市を対象に「住みよさランキング」を毎年公表しております。このたび、2013年6月17日現在の790都市(全国789市と東京区部全体)を対象にした最新結果がまとまりましたので、発表いたします。

なお、「住みよさランキング」は1993年以来、今回で20回目の公表(2011年は非公表)となります。

総合評価トップ3は印西(千葉)、野々市(石川)、守谷(茨城)

2013年の「住みよさランキング」総合評価1位は、2012年に続き、印西市(千葉)となりました。

印西市は北総線の延伸と千葉ニュータウン区域の拡大とともに発展してきた市で、人口の半数以上が千葉ニュータウン区域に在住する典型的なベッドタウンです。市制施行は1996年3月と比較的新しい市で、2010年3月に印旛村、本埜村と合併し現在の市域となりました。

人口流入とそれともなう大型商業施設の相次ぐ開業などにより「利便度」では3位、「快適度」では9位と全国トップクラスの評価となっています。「安心度」が633位と下位にあるものの、「富裕度」「住居水準充実度」も上位にあり、2010年の5位から首位となりました。

東京区部の20%通勤圏であり、指標③で補正(*)を行っています。(20%通勤圏による補正と補正の対象となる指標(指標①~④)についてはP4をご参照ください)(付属資料1:「総合評価 上位50」、付属資料2:「都道府県別トップ3」)

野々市市(石川)も昨年に引き続き、2年連続で2位となりました。

野々市市は2011年11月11日に市制施行して誕生した新しい市です。金沢市のベッドタウンとして都市化が進み、大型商業施設も集中していることから「利便度」では全国1位となりました。人口が引き続き増加傾向にあることに加え、2つの大学が立地していることから高齢者層の比率が低く人口構成が若いこともあり「安心度」でも1位、「快適度」は5位と、3部門で全国トップクラスの評価となったことが寄与しています。

金沢市の20%通勤圏で、指標①で補正(*)を行っています。

3位の守谷市(茨城)は昨年の5位から順位を上げています。

守谷市は1980年代半ばからのニュータウン開発により新興住宅地として発展をしてきましたが、2005年の「つくばエクスプレス」開業で東京都心からのアクセスが飛躍的に向上し、人口の流入、商業施設などの開業に拍車がかかりました。「快適度」が3位、「利便度」は9位のほか、「富裕度」も38位と3部門で全国トップクラスの評価となっています。

東京区部の20%通勤圏であり、指標①、指標②、指標③で補正(*)を行っています。

2013/6/18

なお、今回より20%通勤圏を算出する国勢調査データを2005年調査から2010年調査に変更しました。その結果、新たに他市の20%通勤圏に該当するようになった都市、逆に他市の20%通勤圏ではなくなった都市があり、そのうち一部の都市では順位の高い大きな変動が見られました。たとえば、8位の鯖江市（福井）は、福井市の20%通勤圏に該当するようになり、補正の結果、今年の54位から順位を大きく上げています。

■野々市（石川）が「安心度」「利便度」の2冠、「快適度」は長久手（愛知）が連覇 「富裕度」は浦安（千葉）と武蔵野（東京）が5回連続首位をキープ

カテゴリー別で見ると、「利便度」は野々市市（石川）が昨年に続き2年連続1位となりました。また「安心度」でも昨年1位の西之表市（鹿児島）などを抑え、今年の5位から1位となり2冠獲得となっています。

「快適度」では長久手市（愛知）が昨年に引き続き1位となりました。また、「富裕度」は浦安市（千葉）と武蔵野市（東京）がともに5回連続トップですが、ここにみよし市（愛知）が加わり、3市が1位という結果になっています。

「住居水準充実度」は珠洲市（石川）が4年連続でトップの座を守りました（付属資料3：「カテゴリー別」）。

■「近畿」のみ順位変動あり、草津（滋賀）が芦屋（兵庫）を抑え首位に

名取（宮城）、印西（千葉）が3回連続、下松（山口）が4回連続、鳥栖（佐賀）は5回連続

地域ブロック別では、「近畿」は草津市（滋賀、総合21位）が前回1位の芦屋市（兵庫、総合25位）を抑え、トップの座を獲得しました。

「北海道・東北」では名取市（宮城、総合31位）、「関東」では印西市（千葉、総合1位）が2010年から3回連続1位となりました。「中国・四国」は下松市（山口、総合17位）が4回連続、「九州・沖縄」では鳥栖市（佐賀、総合16位）が5回連続で1位となっています（付属資料4：「地域ブロック別」）。



[全790都市のランキング等は、](#)
[6月17日発売の『都市データパック 2013年版』をご参照下さい。](#)

住みよさランキングとは

▼東洋経済が公的統計をもとに、現状の各市が持つ“都市力”を「安心度」「利便度」「快適度」「富裕度」「住居水準充実度」の5つの観点に分類し、採用14指標について、それぞれ平均値を50とする偏差値を算出、その単純平均を総合評価としてランキングしたもの。

住みよさランキング算出方法

▼対象

全国790都市（全国789市と東京区部全体）。（2013年6月17日現在のすべての市が対象）

▼算出指標

【安心度】

- 病院・一般診療所病床数（人口当たり）／11年10月：厚生労働省「医療施設調査」
- 介護老人福祉施設・介護老人保健施設定員数（65歳以上人口当たり）／11年10月：厚生労働省「介護サービス施設・事業所調査」
- 出生数（15～49歳女性人口当たり）／11年度：総務省「住民基本台帳人口要覧」

【利便度】

- 小売業年間商品販売額（人口当たり）／07年：経済産業省「商業統計」
- 大型小売店店舗面積（人口当たり）／12年4月：東洋経済「全国大型小売店総覧」

【快適度】

- 污水处理人口普及率（未公表の場合は「公共下水道普及率」で代用）／11年3月：各都道府県資料
- 都市公園面積（人口当たり）／11年3月：国土交通省調べ
- 転入・転出口比率／09～11年度：総務省「住民基本台帳人口要覧」
- 新設住宅着工戸数（世帯当たり）／08～10年度：国土交通省「建築着工統計」

【富裕度】

- 財政力指数／11年度：総務省「市町村別決算状況調」
- 地方税収入額（人口当たり）／11年度：総務省「市町村別決算状況調」
- 課税対象所得額（納税者1人当たり）／12年度：総務省「市町村税課税状況等の調」

【住居水準充実度】

- 住宅延べ床面積（世帯当たり）／08年10月：総務省「住宅・土地統計調査」
- 持ち家世帯比率／10年10月：総務省「国勢調査」

▼評価方法

14指標それぞれについて平均値を50とする偏差値を算出し、その平均を総合評価とした。同様に、「安心度」「利便度」「快適度」「富裕度」「住居水準充実度」は、当該指標の偏差値を平均したもの。なお、市町村合併のあった市については、転入・転出口比率など整備不能なデータを除いて算出している。

▼20%通勤圏補正(*)

生活圏の広域化に対応するため、『2010年国勢調査』の従業地集計データを用いて「20%通勤圏」データを算出し、他市の「20%通勤圏」となっている市については、偏差値を算出する際に補正を実施している。具体的には、

1. 採用 14 指標のうち、生活圏の広域化の影響が考えられる 4 指標が補正の対象。
——「安心度」指標：①病院・一般診療所病床数（人口当たり）、
②介護老人福祉・保健施設定員数（65 歳以上人口当たり）、
「利便度」指標：③小売業年間商品販売額（人口当たり）、
④大型小売店店舗面積（人口当たり）——
2. 補正の方法は、A市に住む就業者の 20%以上がB市に勤務している場合（A市はB市の 20% 通勤圏）、上記 4 指標については、それぞれA市とB市の数値を比較し、高いほうの数値をA市の水準として採用（B市の数値のほうが高ければ、B市の数値をA市の数値として扱う）。

今回のランキングでは、全国 790 都市のうち、他都市の 20%通勤圏となっている都市は 206 市。このうち、他市の数値を自市の数値として採用する、いわゆる補正を行ったのは、指標①が 144 市、指標②が 83 市、指標③が 193 市、指標④が 146 市に上っている。